

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名：ようこそ日本！スペシャル体験事業

事業者名：千葉県立房総のむら指定管理者
財団法人千葉県教育振興財団房総のむら

住所：千葉県印旛郡栄町龍角寺 1028

TEL：0476-95-3333

FAX：0476-95-3330

HPアドレス：<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>



連携事業者名：東京成徳大学人文学部日本伝統文化学
科、千葉県立成田国際高等学校箏曲部、
えどさき笑遊館、成田空港外国人総合
観光案内所、成田市観光協会、NPO
法人栄町観光協会

会場：千葉県立房総のむら

事業期間：平成21年7月8日（水）～平成22年3月15日（月）

1. 館の使命と本事業の関係

当館は、江戸時代後期から明治時代初期の商家町並み・武家屋敷・農家や風土記の丘資料館・復元竪穴式住居等からなる体験博物館である。自然・人・モノが一体となって作り出す景観（風景や人の動き）そのものを「展示」としている。その中で、伝統的なくらしや道具、もの作りの技を保存・継承し、新たな価値を見だし、体験をとおりして歴史や文化を学ぶ場を提供することを目的・使命としている。

その立地は、成田空港に近接しており、毎年1万人を超える外国人入館者を迎えている。国内はもとより外国人の人々が、適切な指導のもと伝統的な道具を実際に使用しながら日本の伝統文化を体験する場としては、極めて適した博物館といえる。

地元周辺の学校・観光団体・資料館などと協力し、外国の人々のニーズをふまえながら、日本の伝統文化の実演・体験をとおりしたモデルプログラムを完成することで、外国人への日本文化の理解と普及に大きく寄与する事が期待できる。

2. 企画内容

①事業目的

成田空港に近接する立地を活かして、日本を訪れる外国の方へ日本の伝統的な文化を積極的に紹介する体験プログラムを作成し、国際交流拠点としての博物館機能を強化する。

②事業概要

日本の代表的な伝統文化である、茶・書・有職故実・伝統楽器などを取り入れたプログラムの試作を行い、外国人・日本人のモニターツアーを行って意見を募る。ツアーには観光協会、ホテル関係者、通訳ボランティア等にアドバイザーとして同行してもらい、内容検証を行ったうえでモデルプラン案を提出し、討議会でプログラムの完成を図る。

なお、開発したプログラムを活用して、地域と連携を図りながら事業を継続的なものとしていく。そのため、主に成田空港を利用する外国人向けに、プログラム及び館の広報を目的とした、日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語のパンフレットを作成する。パンフレットは、成田空港内外国人総合観光案内所、成田空港周辺ホテル、成田駅周辺施設等へ配布する。

また、本事業の記録集を作成し（手刷り）、プログラム開発のノウハウについても県内博物館及び近隣関連機関での共有に努める。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

- 7月8日～ 講師・アドバイザー打合せ・意見交換（延べ9名）
7月16日 講師依頼
7月中 各ホテルにポスターの掲示とチラシの配布、受付窓口を依頼
広報（館内、栄町観光協会、成田市観光協会にポスター・チラシ配布、受付窓口を依頼）
ホームページ上に募集ページ掲載
- 8月16日 第1回モニターツアー ゆかた着付け体験・茶道体験・新内流し鑑賞
（日・英版リーフレット配布、アンケート実施、以下各回同様）
講師6名（うち2名は職員）、アドバイザー3名（うち兼通訳ガイド1名）
参加者モニター：計9名（うち外国人2名）
- 9月22日 第2回モニターツアー 書道体験・ゆかた着付け体験・箏曲演奏会
講師13名、アドバイザー3名、通訳ガイド1名
参加者モニター：計5名（うち外国人1名）
- 9月 広報追加（成田空港外国人観光案内所にチラシ送付、受付窓口依頼）
- 10月3日 第3回モニターツアー
和服着付け体験・江戸文字体験
講師5名、
アドバイザー2名（うち兼通訳ガイド1名）
通訳ガイド1名
参加者モニター：計8名
（うち外国人3名）
- 11月15日 第4回モニターツアー
平安衣装着付け体験・香道体験
講師9名、
アドバイザー2名（うち兼通訳ガイド1名）
通訳ガイド1名
参加者モニター：計10名（うち外国人7名）
- 11月下旬 事業概要ホームページ掲載
- 12月 アンケート結果の集計、アドバイザーよりアドバイス票提出
- 1月9日 討議会（アドバイザー3名）
- 1～2月 パンフレット内容検討、作成作業
- 3月3日 記録集、パンフレット完成
- 3月上旬 パンフレット・記録集配布



第3回モニターツアー（江戸文字体験）

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 32 人

内 訳：日本人19人：外国人13人（オランダ(1)、イギリス(3)、アメリカ(3)、台湾(1)、シンガポール(1)）

(3) 事業により作成した印刷物等

モニターツアー参加者用リーフレット（手刷り）
5か国語パンフレット
記録集（手刷り）

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

○テレビ、関連誌等

今回の事業はプログラム開発を目的とするものであったため、あくまで「モニター」を募ってのツアーの実施とそれに伴うアンケート、アドバイザーからの意見を求めるものであった。このため、事業自体を大々的に広報することは特に行わなかったため、マスコミで取り上げての紹介もなかった。

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

外国人向けプログラム開発の試金石として計4回のモニターツアーを実施し、モニターからアンケートを回収した。その結果、日本人・外国人ともに今回実施した内容だけでなく、日本文化の様々なジャンルについて興味のある項目が挙げられ、ある程度の傾向性を見いだすことが出来た。なお、外国人からはツアーの内容だけでなく、館内の外国語表示の方法についても指摘があり、今後の活動の参考になった。

同行アドバイザーからは、「1回のプログラムのメニューが多すぎ、時間内にこなすことを優先しすぎて、参加者に十分に趣旨や背景を理解して貰う余裕がない」などの意見が出た。目新しい体験プログラムを増やすよりも、これまで房総のむらで培ってきたノウハウを活かしつつ、より「分かりやすい」体験プログラムを館側が組み立て、それを提示して選択してもらうようなやり方を考えるべき、という方向性が出された。

300種類以上もある現行の体験メニューについても、外国人が興味を寄せるジャンルをアンケート結果から抽出し、シンプルなコース別に提案することとした。

また、実施当初はモニター募集の周知が行き届かず、定員に満たない回もあったが、回を重ねるうちに外国人旅行者向けの広報ルートなども出来て、軌道に乗るようになった。本事業の大きな収穫の一つは、こうした人的なつながりを得たことともいえる。

今後の課題としては、体験内容だけでなく、外国人及び海外向けの広報のあり方を再検討する必要がある。特に、募集時に直接の窓口となった個人海外旅行者（バックパッカー）ホテルからは、海外からも閲覧できるホームページの英語版を充実すべき、との強い要請があり、大きな課題となった。

これらの検討結果を反映した5か国語（日本語、英語、中国語簡体字・中国語繁体字、韓国語）の体験案内パンフレットを本事業で作成し、3月上旬に成田空港周辺の関連施設に配布した。外国語版では、ホームページの他、館メールアドレスの情報なども掲載し、インターネットを通じた体験申し込みなども受け入れられる体制をとった。

また、平成21年度に館事業としてホームページのデザイン刷新を行ったが、「外国語版ホームページ」については上記の結果を反映させた内容に改変した。リニューアルにあたってはパンフレットで作成した5か国語のデータも活用し、充実を図った。

なお、今回検討を行った外国人向けプログラムのうち、館の予算で独自に継続可能なものについては、次年度以降の事業の中に組み込んでいく方向で臨むことが確認された。